2017年（平成29年）11月14日（火曜日）

日刊建設産業新聞

発行所
日刊建設産業新聞社
本社
〒173-8710 東京都板橋区板橋1-48-9
電話 03（3961）1691（代表）
ファックス 03（3961）2251
（http://www.kensan-news.com/）
支社
大阪、神奈川、九州、中国、東北、甲信越
支局
埼玉、中部

この人

17年度「建設マスター」を受賞

宮本工業工事課長 水野 勝氏

先頭に立ち仲間に声掛け

国土交通省では、建設産業の第一線で「ものづくり」に直接従事し、特に優秀な技能・技術を持ち、後進の指導や育成などに多大な貢献をしている建設技能者を対象に「優秀施工者国土交通大臣顕彰」（建設マスター）を実施しているが、今年度、鉄筋工事のスペシャリストである宮本工業の水野勝さん（55）が選ばれた。そこで水野さんに今の気持ちや仕事などについて聞いた。

―今の気持ちは。

「会社創業時から鉄筋工事に携わり、今までたくさんの方々に叱咤（しった）激励され、今回建設マスターに選ばれた。入社から33年という時間の中にたくさんの思いが山のように詰まっている。感謝の一言に尽きる」

―これまで手がけた仕事、また特に印象に残っていることは。

「鉄筋工事36年、現場一筋で常にその年の主な工事に従事してきた。その中で、一番印象に残っているのは、山口市の山口情報芸術センターの建設に携わったこと。当時、新聞やテレビでも取り上げられていた。設計者は有名建築家の磯崎新氏。磯崎氏は、建物に対する強いこだわりを随所に織り交ぜていたため、施工前の打ち合わせを何度も行いながら作業を進めた」

―安全に関しての工夫や苦労した点は。

「自分で言うのも変だが、ふだんは無口で自己主張することがない。ただ、現場では常に先頭に立ち作業する仲間に声掛けを行い、厳しい目で作業姿勢を見ながら、時に厳しく注意し、良いところがあればしっかりと褒めることを重要視している。そうすることが、自分自身への大きな活力になっている」

―後輩・若い人たちに一言。

「建設業は、けっして派手で楽な仕事ではない。ただし、生活していく上でなくてはならない大切なもの。自分たちが携わり、つくっている建物の一つひとつが、たくさんの安心と安全に大きく関わっている。また次も宮本工業に仕事を依頼しようと、常にお客さんにリピートしてもらえるようがんばってもらいたい」

―今後の目標は。

「これまで携わってきた現場での経験を生かして、後進の指導を行っていきたい。若い人をサポートできるよう力を注いでいく」

―水野さんの横顔

86年2月に入社後、翌年7月に職長、01年4月から課長を務めている。また、00年には鉄筋施工一級技能士を取得している。座右の銘は「足るを知る」、好きな言葉は「考えるな感じろ」。趣味は魚釣り。62年7月19日生まれ。長門市三隅中在住。

―・―・―・―

【会社概要】

▽本社＝宇部市大字船木14―8▽設立＝85年12月▽代表取締役＝宮本ゆり子▽事業内容＝鉄筋工事、鋼材販売、建設副資材販売